

高活協通信(2020年6月号)

発行：一般社団法人 高齢者活躍支援協議会

<http://www.agenomics.org>

◆◆◆高活協ニュース◆◆◆

■お知らせ

○2019年10月1日に高活協が共催(共同事務局を担当)した“「生涯現役の日」交流フォーラム 2019”(“「生涯現役の日」制定・普及委員会”主催)の記録集が完成しました。記録集は“「生涯現役の日」制定・普及委員会”のホームページからご覧いただけます。(下記 URL から PDF をダウンロードできます)

<https://www.lifelongsociety.org/>

■2020年5月の主な活動

○新型コロナウイルス感染拡大のため、高活協としての活動を自粛しました。

◆◆◆高活協主催/共催イベントの紹介◆◆◆

今月は新型コロナウイルス感染拡大のためイベントの開催は自粛しましたが、2019年10月1日に高活協が電通の協力を得て他の4団体と共催(共同事務局を担当)した“「生涯現役の日」交流フォーラム 2019”(“「生涯現役の日」制定・普及委員会”主催)の記録集が完成しましたので、“「生涯現役の日」制定・普及委員会”のホームページに掲載させていただきました。(共同事務局代表:岡本高活協理事長代行)

<https://www.lifelongsociety.org/>

詳細は上記 URL からダウンロードしてご覧になれますが、フォーラムでは主催者挨拶、それに続く基調講演の後、用意された5つのテーブルで、それぞれ職業寿命「雇用」、職業寿命「就労」、社会活動寿命、健康寿命、資産寿命の観点から意見交換を行っていただきました。それぞれのテーブルで交わされた意見のポイントは以下のとおりです。

職業寿命「雇用」テーブル

- ・雇用延長は企業側の関心も高く、人材不足の観点から、これまでは60歳以上をエグジットする方向に傾いていたが、むしろリテンション(囲い込み)する会社もみられるようになった。ただ、実効性はまだ試行錯誤の段階。雇用延長の問題は量的な問題から質的な問題へと移行してきている。
- ・その場その場で企業が職場を社員に用意するというスタンスでは福祉雇用的な観点が変わらない。会社と

個人の関係の変革をはかり、相互依存から自立的な就業マインドをいかに社員にもってもらうかが重要。個人は自らのキャリアにオーナーシップをもつことだ。

職業寿命「就労」テーブル

・高齢者の就労については個人差が非常に大きい。そこで重要になるのは広義の教育。例えば、ライフプラン教育やカウンセリング、能力開発、マインドセットなど、個人個人に合った教育が必要となる。そのうえでどのような仕事を高齢期に行うか。従来の仕事を継続、同じ企業で新しい仕事に就く、別の企業に転職、そして地域や自分たちの生活圏に移ってできる仕事をするといった形がある。地域で働くためには、地域の事業者を巻き込む必要があり、マッチングが大きな課題となる。高齢者の多様性とさまざまなスキルをマッチングさせるためにはコーディネーターの育成も重要である。これに対し市が独自に設ける予算を大いに活用すると良いのではないか。

社会活動寿命テーブル

・現在、社会参加・社会活動は多様化しており、シニアには将来を見据えたマインドセットが追い付いていない。シニアの就労や生涯教育は目的ではなく手段であって、それをもとに何を目指していけばよいか地域の中で解きほぐされていく必要がある。

・シルバー人材センターや生協などの中間支援組織には、現場と政策をつなげる公民連携の役割が期待される。

・ローカルガバメントには、点と点だけでなく、面としてつながって活動を推進していくために、行政や企業、地域住民、あるいはそれらの協働によってシニアの情報不足を補っていけるような共通項を課題として見出すことが求められる。

健康寿命テーブル

・健康については、少年期、壮年・中年期、前期高齢期、後期高齢期に分けて考えるべき。少年期は知育・体育・徳育・食育をしっかり行い、壮年・中年期は生活習慣を整え無病息災を目指す。前期高齢期は社会への貢献、後期高齢期はそれに加えて死生観を持つこと。特に高齢期に重要なのは役割をもつことと周囲との関係をしっかりつくることである。

・健康寿命に関しては、寿命をひたすら延ばすことにフォーカスするのではなく、むしろ不健康寿命を短くするという議論の方が重要ではないか。疾病予防は大事だが、リスクをどんなに減らしても、これだけの長寿社会の中ではやはり限界がある。医療および社会保障は無制限ではないので、医療費にある一定のキャップを掛けるという議論も必要である。

資産寿命テーブル

・いかにお金を貯めるかということよりも、いかに安心して使っていける社会にしていくかが重要である。また、安心して使うにしても、判断力が低下していく中でのお金の貯め方や使い方、騙されない社会をどう構築していくかを考える必要がある。

・金融サービスや社会のあり方について、認知症や判断力の低下について理解する若い人達を育成し、彼らに高齢者の代わりに金融取引を行うコンシェルジュ的な役割を果たしてもらおう。その後方支援として金融機関などが機能するというデザインに基づいた地域社会を構築していくことが一つのアプローチとして有効ではないか。

・公的年金や終身年金のあり方を抜本的に変えることや、資産を使わないことに対するペナルティも視点としてはあるのではないか。

◆◆◆高活協会員関連イベント等のご紹介◆◆◆

会員のご希望があればご紹介記事を適宜掲載させていただく予定です。

◆◆◆生涯現役社会の実現に向けて – トピックス◆◆◆

生涯現役社会は、「健康寿命」、「職業寿命」、「社会活動寿命」、「資産寿命」という 4 つの寿命が共に伸びる社会、つまり「それぞれの寿命の伸びが相互に他の寿命も伸ばす」という好循環がもたらされる社会です。そんな生涯現役社会の実現に向けた最近の動きを紹介していきます。

■年金改革法が成立

2020年5月29日、公的年金の受給開始年齢を75歳まで繰り下げられるようにすることなどを盛り込んだ年金改革法が成立しました。同改革法では、厚生年金の適用を広げて多様な働き方に対応すること。企業型確定拠出年金(DC)や個人型確定拠出年金(イデコ)では加入できる年齢を5歳引き上げ、受給開始時期の上限も75歳に引き上げること(イデコ対象企業も拡大)。65歳未満の在職老齢年金の減額基準を47万円に緩和することなどが盛り込まれました。支え手を増やし、高齢になっても働ける環境を整えることが狙いです。

■民間の財団でもコロナ禍を乗り越えるための基金を創設

公益財団法人さわやか福祉財団では、「地域助け合い基金」を創設してコロナ化を乗り越えるための支援活動を始めています。概要は下の URL からご覧になれます。

<https://www.sawayakazaidan.or.jp/covid19-donate/>

■高齢者雇用の総合誌『エルダー』2020年6月号(2020年6月1日発行)のご紹介

発行:独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

<http://www.jeed.or.jp/elderly/data/elder/index.html>

<特集>

特集 定年退職後の多様なキャリアを考える～高齢者雇用は次のステージへ～

改正高年齢者雇用安定法が成立し、“70歳までの就業機会確保”に向けて、定年廃止や定年延長、継続雇用のほか、他企業への再就職やフリーランス契約への資金提供、起業支援、社会貢献活動参加への資金提供などの選択肢が示された。これからは、自社での雇用延長だけではなく、定年退職後のキャリアの多様化を、企業が支えていく時代となるだろう。そこで本特集では、高齢者のセカンドキャリアを支える企業や自治体の事例を通して、定年退職後の多様なキャリアのあり方について解説した。

○特別インタビュー

職業寿命は企業寿命より長い 会社を離れても生きるキャリアを

一般社団法人シニアセカンドキャリア推進協会 理事長 高平ゆかり氏に聞く

○事例①

優秀な人材にグループ外に出向いただき、「win-win-win」の関係を築く

——大日本住友製薬株式会社

○事例②

「シニアが東京を元気にする」、65歳以上の就業支援プロジェクト

——東京都産業労働局雇用就業部就業推進課／株式会社MAP

○事例③

やりがいを感じる仕事を見出し、自分のペースで働ける「ゆる起業」を支援

——銀座セカンドライフ株式会社／IPOテクノ株式会社

○事例④

シニアが身につけたスキルや経験を活かし社会貢献に参画できる環境づくり

——認定NPO法人プラチナ・ギルドの会

<連載>

○リーダーズトーク(No.61)

グループ社員の定年を60歳から70歳に延長、「人材価値」を軸に一貫した処遇制度を実現

株式会社USEN-NEXT HOLDINGS 執行役員 コーポレート統括部長 住谷 猛さんに聞く

○江戸から東京へ 作家 童門冬二(第91回)

豪商の経営法 紀伊国屋文左衛門

○高齢者に聞く 生涯現役で働くとは(第73回)

株式会社ソラスト グループホーム上井草あやめ

ケアマネジャー 吉田信幸さん(67歳)

○高齢者の職場探訪 北から、南から(第96回)

青森県 社会福祉法人水鏡会

○AI・ICTで働き方が変わる～高齢者から始まる働き方改革～(最終回)

東京大学 先端科学技術研究センター 講師 檜山 敦

○知っておきたい労働法 Q&A(第25回)

中途採用の留意点、管理監督者の要件

○新連載 いまさら聞けない人事用語辞典

「人事制度」

株式会社グローセンパートナー 執行役員・ディレクター 吉岡利之

○日本史にみる長寿食(vol.320) 食文化史研究家 永山久夫

アスパラガスは長寿野菜

○技を支える(vol.312)

江戸の伝統模様を表現する「版木押し」の熟練技

唐紙師 小泉幸雄さん(72歳)

○イキイキ働くための脳力アップトレーニング！(第36回)

◆◆◆◆◆
配信先メールアドレスの変更をご希望の方、また配信が不要な方は高齢者活躍
支援協議会・事務局までご連絡ください。

本通信に対するご意見やご感想をお聞かせください。

また、本通信に掲載してほしい情報等がありましたら、ぜひご連絡ください。
